

大学運営会議議事録		
開催日 及び場所	令和4年12月8日(木) 午後2時00分から午後2時30分まで 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施	
出欠状況	出席:35名 欠席:3名	
<p>1 報告事項</p> <p>(1) 令和5年度 静岡県公立大学法人当初予算編成方針</p> <p>(2) 令和4年度 防災訓練実施結果について</p> <p style="padding-left: 20px;">①草薙キャンパス</p> <p style="padding-left: 20px;">②小鹿キャンパス</p> <p>(3) 令和4年度学生定期健康診断結果及び令和5年度学生定期健康診断検査項目</p> <p style="padding-left: 20px;">①静岡県立大学</p> <p style="padding-left: 20px;">②静岡県立大学短期大学部</p> <p>(4) 本学主催 COIL 国際シンポジウムの開催について</p>		

・前回議事録(案)の確認

令和4年11月の大学運営会議議事録(案)について、案のとおり承認された。

1 報告事項

(1) 令和5年度 静岡県公立大学法人当初予算編成方針

本件は令和4年11月25日の経営審議会で承認され、その後の役員会で報告したものを。

始めに法人における予算の構造について、令和4年度当初予算における収入は授業料等の自己収入、県からの交付金等、その他外部資金などで、資料記載の割合で構成されている。一方の支出は、一般管理費や人件費、施設整備費といった義務的経費が大半を占めている。

次に令和5年度(来年度)の予算編成の基本的な考え方は、県では当初予算編成要領が発表されている。歳入のうち、一般財源総額は今年度並みの水準の確保を見込んでいるが、歳出は義務的経費の増加などにより財源不足となることを見込んでいるため、県では徹底した歳出のスリム化、歳入の確保に取り組むこととしている。本法人の来年度当初予算の歳入については、運営費交付金及び学生等納付金は令和4年度と同水準を見込んでいるが、歳出については光熱費の大幅な増をはじめとし、円安、資材不足の影響、給与改定に伴う人件費の増などにより、非常に厳しい財政収支になることが想定されている。このような状況下ではあるが、教育研究活動と新型コロナウイルス感染防止対策の両立を図りつつ、中期計画に掲げる重点事項を着実に実施していくための取組を行う必要がある。項目別については資料記載のとおり。

これらの基本的な考え方に基づいた収入予算編成については、資料記載のとおり。一方の支出予算編成については、グローバル化の進展、新型コロナウイルス感染症への対応、物価高騰などの大学を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、中期計画の着実な推進の観点から優先度を明確にした事業選択に努める。特に来年度においては、光熱費等の増加による大幅な財源不足が見込まれることから、事業の実績や必要性を十分に検証し、再構築含め見直しを図る。新規

事業については既存事業の見直しと合わせ、真に必要な額を精査した上で計上する。項目別の詳細は資料に記載のとおり。

現在事務局内では本方針に基づき、非常に厳しい予算編成作業を行っている。中期計画に掲げる重点取組を推進し、大学が持続的に発展できるような予算編成に取り組んでいくが、財政状況が非常に厳しいことについて御理解いただき、今後の業務において少しでも節約、節電などのできることをあれば御協力いただきたい。

(2) 令和4年度 防災訓練実施結果について

① 草薙キャンパス

草薙キャンパスでは「自衛消防訓練」を令和4年9月9日(金)、「全学防災訓練」を同年11月11日(金)に、2日間に分けて実施した。

1つ目の「自衛消防訓練」についての概要及び訓練内容については資料記載のとおり。訓練当日は教職員101名に参加いただいた。

2つ目の「全学防災訓練」についての概要は記載のとおり。対象者は草薙キャンパスの全学生及び教職員とし、2時限目の授業時間体に訓練を実施した。学生の避難を伴う訓練は、令和元年以来3年ぶりの実施となった。草薙キャンパスの1,247名が避難訓練に参加し、避難地は「芝生園地」「グラウンド」の2か所を設けた。それぞれ静岡市駿河消防署の署員から講評をいただき、その後副学長から訓示をいただいた。

消防署の署員からは「多人数の避難でありながら迅速に避難ができていた」といった、教職員の誘導手順や学生の協力的な姿勢についてお褒めの言葉をいただいた。併せて「災害は死と隣り合わせの状況になるため、そのことを意識し、平時から避難経路や危険箇所を確認するなどの身を守ることを常に考えて生活して欲しい」という話があった。

副学長からは「3年ぶりの実施のためか、多少の混乱や、円滑にいかない部分もあったが、無事避難訓練を終えることができた」、「平時に非常口や非常階段を確認しておくこと、非常用の持ち出し品を用意しておくことなど、普段の心構えをしておくように」という話があった。

最後に「全学防災訓練」と並行して「安否情報入力訓練」について実施したので、結果を報告する。本訓練は入力率の低さが課題であったが、今年度は訓練の目的を事前に学生へ伝え、未入力者を抽出して入力勧奨を行った結果、資料に記載のとおり大幅に入力率が向上した。今後も入力率100%を目指して取り組んでいきたいと考えている。

② 小鹿キャンパス

訓練は令和4年10月27日(木)の9時から12時まで実施した。対象者は小鹿キャンパスの看護学部、短期大学部の教職員及び学生、常駐の委託業者とした。なお、今年度は学生の体験訓練を3年ぶりに再開し、静岡市駿河消防署の御協力をいただいた。新型コロナウイルス感染症の対策として、今年度も地域住民を参集しての訓練については中止した。また、看護学部の教員及び学生は授業があったため、地震発生時の「身体の安全確保訓練」、「安否情報入力訓練」のみの参加とし、授業のない教員及び学生については全ての訓練に参加いただいた。

訓練内容は記載のとおり。小鹿キャンパスでは「自衛消防訓練」と「防災訓練」を同時開催し、資料に記載の「個別訓練」を実施した。

参加状況は、短期大学部学生164名、看護学部学生・大学院生5名、教職員68名、常駐委

託業者 8 名、全体 245 名が参加した。なお、看護学部学生・大学院生の人数は「避難訓練及び個別訓練」への参加人数である。それぞれの参加内訳は表のとおり。

訓練終了後の参加者アンケート結果を踏まえ、避難地についてはグラウンドの液状化が想定されるということで、あらゆる被害を想定し安全に避難できる場所を選定する。また、自衛消防隊地区隊の訓練に多少の混乱があったため、訓練実施要領をブラッシュアップする。その他災害対策本部で使用する備品について、発災時に準備することは困難なので備品の見直しを行い、必要な備品は可能な限り事務・図書館棟内にある本部用会議室に保管するなどの改善を図っていきたいと考えている。

(3) 令和 4 年度学生定期健康診断結果及び令和 5 年度学生定期健康診断検査項目

① 静岡県立大学

学生定期健康診断は 4 月のガイダンス時に実施した。従来と異なった点として、これまでは第 3 会議室等を使用し実施していたが、今回は体育館を使用することで、広いスペースを確保し密を避けて実施できた。

全体の受診率は 90.9%で、内訳は学部研究科別に資料記載のとおり。大学院生の受診率が若干低い、社会人学生が各勤務先の施設で受診しているため、実際の受診率は高いということと理解していただきたい。各部局でまだ受診されていない学生については受診勧奨をお願いする。

有所見率については「A (基準範囲, 正常)」「B (心配なし)」を除いた、「C」以下が有所見率となっている。全体で 32.7%であり、例年と比較すると若干減少傾向にある。有所見の内容(詳細)は資料に記載のとおり。疾患により異常があるという学生に対しては、医務室でそれぞれ保健指導を行っている。

続いて、令和 5 年度学生定期健康診断の検査項目について、令和 4 年度と変更した部分は資料上に黄色で示した部分が該当箇所である。

② 静岡県立大学短期大学部

短期大学部の受診率については例年どおりで、全体で 98.5%であった。「経過観察を含めた異常なし(軽症)」の割合は 93.1%で、「要再検査」から「要受診」までの数値は例年どおりである。内訳については資料記載のとおり。

次年度の検査項目について短期大学部は変更なし。

< 質疑応答 >

- ・看護学部の学生については小鹿キャンパスから草薙キャンパスに移動して受診していただいているが、法人事務局と大学事務局の統合を行うなどの組織改編を行ってきた中で、健康診断についても技術的に難しいことや、従来のデータと比較する上で問題となる部分もあるかもしれないが、両キャンパス間を移動することなく受診できる方法がないかという点について御検討いただきたい。(議長)
- ・状況を確認する。(説明者)

(4) 本学主催 COIL 国際シンポジウムの開催について

「人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラム (COIL)」という内容で5年間にわたり文部科学省の助成金を得て、上智大学、お茶の水女子大学、本学の3大学連携で事業を進めてきた。今回その成果をシンポジウムという形でお知らせする。

本シンポジウムは令和4年12月15日(木)に上智大学の四谷キャンパスで実施する。当日は特に事例報告を中心にCOILプログラムの成果報告を行う。

プログラム構成として、本学では看護学部の根岸先生が様々な海外大学や上智大学と連携し、看護学分野でCOIL実践をしていただいたので、その成果を御報告いただく予定である。その後COILを経験した学生が参加するパネルディスカッションを実施し、本学の澤崎先生にモデレーターをお務めいただく。午後は「今後の展望」で米国の連携大学にビデオメッセージをいただき、その後は3大学副学長のパネルディスカッションを「オンライン教育3大学連携の展望と発展性」という内容で、COILを含めたオンライン教育が今後の大学で果たし得る可能性について、展望を含めてディスカッションをしていく。

本シンポジウムは対面で実施するが、同時にZoom・ウェビナーで開催するので、積極的に御参加いただきたい。対面で参加される場合には国際交流室へ事前に御連絡いただきたい。

2 その他

(1) 新型コロナウイルス感染症等の学内感染状況について

新型コロナウイルス感染症に関しては横ばいの状態で未だに感染が続いており、第8波に入りそうな勢いがある。加えて先週からはインフルエンザ罹患者が急増しており、このまま進むと新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの両方が学内で流行する可能性があるため、各教職員から学生には、発熱症状があった場合には大学に来ないように御指導いただきたい。また、感染予防対策についても併せて御指導いただくようお願いする。